◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆

愛媛県立図書館 読書会協力図書
新規受入セットのご紹介（一般向け） 平成 28 年版目録掲載

0 読書・雑書

061 子どもと本

松岡享子著 岩波書店 2015（平成 27）年 252p

子どもと本。このふたつが、一番好きな、そして、一番大切に思うものー。本好きの著者が、図書館の存在に開眼し、アメリカで児童図書館員として働いて日本に帰り、東京子ども図書館を設立し、現在に至るまでの話から長年の実践に基づく心構えの数々まで、子どもと本への限りない信頼と愛が満ちあふれている一冊。

3 社会の問題

3170 しんがり

清武英利著 講談社 2015（平成 27）年 430p

１６年前、大手証券会社の山一證券が、金融危機の波にもまれ破綻した。会社の消滅に直面した時、多くの役職員が再就職に走る中、業務管理部を中心にした「しんがり」チームが真相究明と顧客への清算業務を続けた。会社の不条理と戦い、サラリーマンの在り方を考えさせる作品である。

****

3171 家族という病

下重暁子著 幻冬舎 2015（平成 27）年 177p

連日のように家族の間で事件は起きているのに、なぜ、日本で「家族」は美化されるのか。キャスターから文筆家となり、成功者のイメージを持たれている著者が、家族との葛藤の日々を赤裸々に綴り、一番近くて、一番理解し難い「家族」という存在に迫る。

4 自然をみつめる

475 捏造の科学者

須田桃子著 文藝春秋 2014（平成 26）年 383p

若き女性科学者による、医学の常識を変える大発見だったはずの STAP 細胞は、科学史に残るスキャンダルとなった。科学ジャーナリストが図や写真を駆使して再生医療についても解説し、STAP 細胞騒動を時系列順にまとめた一冊。

6 産業関係

638 牛と土

眞並恭介著 集英社 2015（平成 27）年 269p

東日本大震災以降、福島の牛と牛飼いたちが辿った苦闘の 4 年間を綴ったノンフィクション。牛飼いたちが殺処分命令から救った牛たちに、荒れた農地を保全する価値があることが分かる。第 37 回講談社ノンフィクション賞、第 58 回日本ジャーナリスト会議賞受賞。

9 詩歌・随筆・記録・外国文学

9386 古田足日さんからのバトン

ありがとう古田足日さんの会編 かもがわ出版 2015（平成 27）年 277p

2014 年 6 月 8 日、愛媛県川之江町（現四国中央市）出身の児童文学作家・古田足日さんが亡くなった。『大きい 1 年生と小さな 2 年生』『おしいれのぼうけん』など、子どもへの優しさにあふれる作品を多数世に送り出してこられた古田さん。古田さんからのバトンを受け取り、次の走者へ渡していきたいと願う人たちのエッセイ集。

◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆

◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆

愛媛県立図書館 読書会協力図書
新規受入セットのご紹介（一般向け） 平成 28 年版目録掲載

****

9387 一〇三歳になってわかったこと

篠田桃紅著 幻冬舎 2015（平成 27）年 169p

「百歳はこの世の治外法権」と言う著者の、その行動も心も自らに由って生きてきた日々を振り返りながら、真摯な態度で心のままに生きる「今」の言葉を綴った一冊。

何にも寄りかからず、凛とした生き方から溢れ出る言葉は美しい。

****

9388 人間の分際

曽野綾子著 幻冬舎 2015（平成 27）年 241p

「やればできる」というのは、とんでもない思い上がり。著者の体験だけでも、努力してもダメなことは実に多いという。努力でできることには限度があるが、人間はその分際（身の程）を心得ることで幸福な生活に近づくのだ。著者がこれまでの生活から得た知恵を凝縮した作品。人生を前向きに考えられる言葉が集められている。

****

9389 窓から逃げた 100 歳老人

ヨナス・ヨナソン著 西村書店 2014（平成 26）年 413p

100 歳の誕生パーティ直前に、アランは老人ホームの窓から逃げ出した。腹痛のギャングから預かった大金を持ったまま、珍道中を繰り広げる。実はアランは、老人ホームに来るまでにも、歴史を変える大冒険を経験していて……。痛快ブラックコメディ。

F 小 説

F570 サラバ！ 上巻・下巻

西加奈子著 小学館 2014（平成 26）年 375p, 358p

自由奔放な母、変わり者の姉、寡黙な父の 4 人家族の中で、ひっそりと存在を消して「いい子」を演じ、素直な気持ちを表に出さない性格になった歩。大人になるまでに出会った様々な人、その言葉に隠された意味を知ることで、「自分で自分の信じるものを見つける」という人生の命題を手に入れた。第 152 回直木賞受賞作。

****

F571 鹿の王 上巻・下巻

上橋菜穂子著 角川書店 2014（平成 26）年 565p, 554p

ある夜、犬の群れが岩塩鉱を襲い謎の病が発生する。生き残った幼子とともに逃亡する、奴隷となった元戦士。謎の病の治療法を探す医術師。それぞれの立場で物語は進んでいく。壮大なスケールの医療サスペンスファンタジー。2015 年「本屋大賞」、第 4 回「日本医療小説大賞」を受賞。

◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆